

職業リハ学会通信

NO.148 2016年 12月発行

学会大会

第45回大会は

栃木県宇都宮（作新学院大学）での開催です

—餃子だけじゃない宇都宮を体験していただきたい！—

大会長 牧 裕夫（作新学院大学）

大会委員長 野崎智仁（国際医療福祉大学）

来年度第45回大会は栃木県宇都宮市の作新学院大学を会場として、また事務局はNPO法人那須フロンティアとして日程としては8月25日（金）・26日（土）を予定し開催準備を進めています。

宇都宮といえば餃子、確かに宇都宮の餃子は美味しい。ただそれだけじゃない、ラーメンさらには蕎麦が店舗ごとに個性的です。お時間が許せば江戸時代のテーマパーク日光東照宮（引用：NHK「ブラタモリ」）があり、小生が以前在住していた某県の支援者達はどの学会に参加しても「温泉学会に行こう・・・」と温泉もまた多彩です。

大会事務局として心配しているのが、会場の本学キャンパスが宇都宮駅から少し離れている点です。しかしながら夏には蟻を踏まないように移動しなければならない自然豊かなそのキャンパスは、有名な建築家であり、特にタイムリーに2020年に開催される東京オリンピックのメイン会場の設計者隈研吾によります。室外機が見あたらないことにはすぐ気づきますが、在学4年間でも全ての師の意匠の意味を知ることができない程です。

大会のテーマは『「共に成長」からの職リハ支援の進展（仮）』です。本学会第44回京都大会でジョブコーチ関連のワークショップに参加しましたが、発表者から「マニュアル化できない支援者のセンスといえる部分がある」と発言されていました。また私が以前勤めていた職場の医学アドバイザーでした臺弘先生が、精神障害者リハの関連著書で「人との巡り会い、偶然の出来事が機縁になることが多い」「人生の舞台で演じられている出来事」と述べられておりました。

シェイクスピア『お気に召すまま』の一説「世界はすべてお芝居だ。男と女、とりどりに、・・・・人ひとりの様々な役どころ」と支援者は舞台性の中で様々な相互性に関われています。「共に成長する」その相互性は利用者との関係に止まらず関係機関の連携、さらには地域コミュニティにも広がっています。おそらく職リハほど様々な関係性に関かれた支援を展開する職種は他に類をみないところでしょう。

餃子のように食べてみないと中身がわからないように、支援も実際に進めてみないと分からない面が多々あるのが現場ではないでしょうか。同じように今回の大会準備でも、進めてみないと分からないことが多々ある日々、今回の大会長と大会委員長のおぼつかないチャレンジであり、行き届かない場面が多々あるかもしれませんが精一杯よい大会にしていきたいところです。

お忙しいところ万障お繰り合わせのうえご参加いただけますようお願いいたします。

支援の進展とそこでの醍醐味を予期せぬ舞台展開で実感されている方も少なからずと信じたいところです。支援場面での相互性としてお互いの資源が浸透していくことが不可欠で、そこに利用者、支援者自身さらにはコミュニティの成長があり、その成長が必要条件的にあり、支援が進展するのではと考えるところです。

（文責：牧 裕夫）

第 45 回学会大会のご案内	1P
2016 年第 3 回運営理事会報告	2P
委員会報告	4P
ブロック活動報告	5P
学会員投稿	7P
新入会員のお知らせ	8P
事務局からのお知らせ	8P

